

浣腸薬

リスクの程度 の詳述	A 薬理作用	B 相互作用	C 重篤な副作用のおそれ	C' 重篤ではないが、注意すべき副作用のおそれ	D 濫用のおそれ	E 患者背景(既往歴、治療状況等)(重篤な副作用につながるおそれ)	F 効能・効果(症状の悪化につながるおそれ)	G 使用方法(誤使用のおそれ)	H スイッチ化等に伴う使用環境の変化	用法用量	効能効果		
評価の視点	薬理作用	相互作用 併用禁忌(他剤との併用により重大な問題が発生するおそれ) 併用注意	重篤な副作用のおそれ 薬理・毒性に基づくもの 特異体質・アレルギー等によるもの	重篤ではないが、注意すべき副作用のおそれ 薬理・毒性に基づくもの 特異体質・アレルギー等によるもの	薬理に基づく習慣性	適応禁忌 慎重投与(投与により障害の再発・悪化のおそれ)	症状の悪化につながるおそれ 適応対象の症状の判別に注意を要する(適応を誤るおそれ)	使用方法(誤使用のおそれ) 使用量に上限があるもの 過量使用・誤使用のおそれ 長期使用による健康被害のおそれ	スイッチ化等に伴う使用環境の変化	用法用量	効能効果		
直腸大腸刺激成分 直腸大腸刺激成分	グリセリン グリセリン浣腸「オオタ」	直腸内の水分を吸収することに伴う刺激作用により腸管の蠕動亢進、浸透作用により粪便を軟化、潤滑化させ排便を促す。		頻度不明(腹痛、腹鳴、腹部膨満感、直腸不快感、肛門部違和感・熱感、残便感等、血圧変動)	頻度不明(過敏症)		腸管内出血・腹腔内炎症・腸管に穿孔又はそのおそれ(腹膜炎誘発・症状増悪・溶血・腎不全)、強い全身衰弱(衰弱状態悪化・ショック)、下部消化管術直後(腸管縫合部離解)、吐気・嘔吐・激しい腹痛・急性腹痛の疑い(症状悪化)		子宮収縮の誘発(流早産)、浣腸用(のみ使用)	挿入時の損傷、溶血に注意	運用による耐性の増大等が減弱するので長期運用を避けること。	1回1コ(50%30~150mL)を直腸内に注入する。高齢者は少量から開始。	便秘、腸疾患時の排便
直腸大腸刺激成分 直腸大腸刺激成分	ローソルビトール ローソルビトール液「日研」	肝疾患時の肝グリコーゲンの生成量増加。緩下作用を有する。	腸穿孔・腸潰瘍・腸壊死	(頻度不明)腹痛・下痢・腹部膨満・放屁(大量投与)						大量で腹痛・下痢・腹部膨満・放屁、注しないこと(外国、ポリステレンスルホン酸型陽イオン交換樹脂のソルビトール懸濁液の注腸投与による結腸壊死)、ポリステレンスルホン酸カルシウムのソルビトール懸濁液の経口投与による結腸狭窄・結腸潰瘍		1.X線造影剤に添加して経口投与する。添加量はX線造影剤中の硫酸バリウム100gに対して0~20g(13~27mL)とする。2.必要量を経口投与	1.消化管のX線造影の迅速化。消化管のX線造影時の便秘の防止 2.経口的栄養補給
直腸大腸刺激成分 直腸大腸刺激成分	ピサコジル サトラックス坐薬	蠕動運動の促進、排便反射経路の刺激、結腸内の水分吸収抑制により排便機能を促進する		頻度不明(直腸刺激感、直腸炎、腹部不快感、腹痛、肛門部不快感等)	頻度不明(過敏症)		急性腹痛(症状悪化)、痙攣性便秘(症状悪化)、重症の硬結便(症状悪化)、患者肛門裂創、潰瘍性痔核(坐剤挿入の物理的刺激)		子宮収縮の誘発(流早産)	大量使用で流早産(妊婦)		10mgを1回1個、1日1~2回肛門内に挿入。高齢者は減量。	便秘症 消化管検査時又は手術前後における腸管内容物の排除
その他	クエン酸ナトリウム												

鎮咳去痰薬

リスクの程度 の評価	A 薬理作用	B 相互作用	C 重篤な副作用のおそれ	C' 重篤ではないが、注意 すべき副作用のおそれ	D 濫用のお それ	E 患者背景(既往歴、治療状況等)(重 篤な副作用につながるおそれ)	F 効能・効果(症状の悪化 につながるおそれ)	G 使用方法(誤使用のおそれ)	H スイッチ 化等に伴う 使用環境の 変化	用法用量	効能効果				
評価の視点	薬理作用	相互作用 併用禁忌(他 剤との併用 により重大な 問題が発生す るおそれ)	併用注意	重篤な副作用のおそれ 薬理・毒性に 基づくもの	重篤ではないが、注意す べき副作用のおそれ 特異体質・ア レルギー等に よるもの	薬理に基づく 習慣性	適応禁忌 慎重投与 (投与により障害 の再発・悪化のお それ)	症状の悪化 につながるお それ	適応対象の 症状の判別 に注意を要す (適応を誤る おそれ)	使用方法(誤使用のおそれ) 使用量に上 限があるもの	適量使用・誤使 用のおそれ	長期使用に よる健康被害 のおそれ	スイッチ化等 に伴う使用 環境の変化	用法用量	効能効果
クエン酸チベ ピジン(ヒベン ズ酸チベピジ ンと同じ)	アスベリン錠	延髄の 咳中 枢を抑制し咳 の感受性を 低下させるこ とにより鎮咳 作用を示すと ともに、気管 支分泌物を 亢進し 気道粘 膜および上皮 運動を亢進す ることにより 去痰作用を示 す。		頻度不明(咳 嗽、腹痛、嘔 吐)	頻度不明(発 疹、呼吸困難 等を伴うアナ フィラキシー 様症状)	0.1~5%未満 (眠気、不 眠、眩暈、食 欲不振、便 秘、口渇、胸 部不快感、膨 満感、軟便、 下痢、悪 心)、頻度不 明(複痛、興奮)	0.1~5%未満 (過敏症)				「過量投与」眠 気、眩暈、興奮、 譫妄、見当識障 害、意識障害、 精神錯乱等があ らわれることがあ る。			通常成人には、ヒベン ズ酸チベピジンとして1 日66.5~132.9mg(ク エン酸チベピジン60~ 120mg相当量)を3回に分 割経口投与する。小 児には、ヒベンズ酸チ ベピジンとして1日1歳 未満5.54~22.1mg(同5 ~20mg相当量)、1歳以 上3歳未満11.1~ 21.7mg(同10~25mg相 当量)、3歳以上6歳未 満16.6~44.3mg(同15~ 40mg相当量)を3回に分 割経口投与する。 なお、年齢・症状により 適宜増減する。一般に 高齢者では生理機能が 低下しているので減量 するなど注意すること。	下記疾患に伴 う咳嗽及び咯 痰排出困難 感冒、上気道 炎(咽喉頭炎、 鼻カタル)、急 性気管支炎、 慢性気管支 炎、肺炎、肺結 核、気管支拡張 症
鎮咳成分	奥化水素酸 デキストロメ トルファン	メジコン錠15 mg	奥化水素酸 デキス・ロメ ルファンは、 延髄にある咳 中枢に直接 作用し、咳反 射を抑制する ことにより鎮 咳作用を示 す。	呼吸抑制 (0.1%未満)		5%以上又は 頻度不明(眠 気)。0.1%~ 5%未満(頭 痛、めまい、 悪心、嘔吐、 食欲不振、便 秘、腹痛)、 0.1%未満(不 快、不眠等、 口渇、おくび 等)、自動車の 運転等危 険を伴う機械 の操作	5%以上又は 頻度不明(過 敏症)							通常、成人には奥化水 素酸デキストロメトル ファンとして1回15~ 30mgを1日1~4回経口 投与する。 なお、年齢・症状により 適宜増減する。高齢者 では減量するなど注意 が必要	下記疾患に伴 う咳嗽 感冒、急性気 管支炎、慢性 気管支炎、気 管支拡張症、 肺炎、肺結核、 上気道炎(咽 喉頭炎、鼻カ タル) 気管支造影術 及び気管支鏡 検査時の咳嗽
	ノスカピン	ナルコテン 錠30	咳中枢を抑制 し、鎮咳作用 を示す非麻薬 性の鎮咳薬 である。鎮け い作用及び 軽度の気管 支拡張作用 を有し、けい れん生り咳 に効果的であ るとされている。 気管支分泌 を抑制しない ので痰の排 出を妨げない。 一方、呼吸中 枢刺激作用 を有するが、 鎮痛、鎮静作 用はなく、耐 性の発現や 依存性もない。			0.5~5%未満 (眠気、頭 痛、頭重、悪 心、食欲不振、 便秘)								ノスカピンとして、通常 成人1回10~30mgを1 日3~4回経口投与す る。なお、年齢・症状に より適宜増減する。一 般に高齢者では生理機 能低下しているため 減量するなど注意す ること。	下記疾患に伴 う咳嗽 感冒、気管支 喘息、喘息性 (様)気管支炎、 急性気管支 炎、慢性気管 支炎、気管支 拡張症、肺炎、 肺結核、肺癌、 肺化膿症、胸 膜炎、上気道 炎(咽喉頭炎、 鼻カタル)

鎮咳去痰薬

リスクの程度 の評価	A 薬理作用	B 相互作用	C 重篤な副作用のおそれ	C' 重篤ではないが、注意すべき副作用のおそれ	D 濫用のおそれ	E 患者背景(既往歴、治療状況等)(重篤な副作用につながるおそれ)	F 効能・効果(症状の悪化につながるおそれ)	G 使用方法(誤使用のおそれ)	H スイッチ化等に伴う使用環境の変化							
評価の視点	薬理作用	相互作用	重篤な副作用のおそれ	重篤ではないが、注意すべき副作用のおそれ	薬理に基づく習慣性	適応禁忌	慎重投与(投与により障害の再発・悪化のおそれ)	症状の悪化につながるおそれ	適応対象の症状の判別に注意を要する(適応を認めるおそれ)	使用方法(誤使用のおそれ)	用量に関するもの	過量使用・誤使用のおそれ	長期使用による健康被害のおそれ	スイッチ化等に伴う使用環境の変化	用法用量	効能効果
鎮咳成分	リン酸シンドロコドイン リン酸シンドロコドイン100%「タナベ」	モルヒネと極めて類似した化学構造と薬理作用を有するが、作用の強さはモルヒネとコデインの中間に位置し、鎮咳作用量や鎮痛作用はコデインより強い。コデインと同様、主として鎮咳の目的で使用される。	併用禁忌(他剤との併用により重大な問題が発生するおそれ) 併用注意 中枢神経抑制剤・三環系抗うつ剤・吸入麻酔剤・MAO阻害剤・β遮断剤・アルコール(呼吸抑制、低血圧及び顕著な鎮静又は昏睡)、クマリン系抗凝血剤(抗凝血作用が増強)、抗コリン作用性薬剤(痙攣性イレウスに至る重篤な便秘又は尿貯留が起こるおそれ)	薬物依存(頻度不明)、呼吸抑制(頻度不明)、錯乱(頻度不明)、無気肺・気管支痙攣・喉頭浮腫(頻度不明)、炎症性腸疾患の患者に投与した場合麻酔性イレウス・中毒性巨大結腸(頻度不明)	頻度不明(不整脈、血圧変動、顔面潮紅、眩暈、眩暈、視調節障害、発汗、悪心、嘔吐、便秘、排尿障害)、自動車運転等危険を伴う機械の操作	頻度不明(過敏症)	重篤な呼吸抑制(増強)、気管支喘息発作中(気道分泌を妨げる)、重篤な肝障害(昏睡に陥ることがある)、慢性肺疾患に続発する心不全(呼吸抑制や循環不全を増強)、痙攣状態(脊髄の刺激効果)、急性アルコール中毒(呼吸抑制を増強)、アヘンアルカロイドに対し過敏症、出血性大腸炎(症状の悪化、治療期間の延長をきたすおそれ)、細菌性下痢(治療期間の延長をきたすおそれ)	心機能障害、呼吸機能障害、肝・腎機能障害、脳に器質的障害、ショック状態、代謝性アシドーシス、甲状腺機能低下症、副腎皮質機能低下症、薬物依存の既往歴、高齢者、新生児、乳児、衰弱者、前立腺肥大による排尿障害、尿道狭窄、尿管手術後、器質的幽門狭窄、痙攣性イレウス、最近消化管手術、痙攣の既往歴、胆嚢障害及び胆石、重篤な炎症性腸疾患、妊婦又は妊娠している可能性のある婦人、授乳中の婦人、分娩前、分娩時	細菌性下痢		過量で呼吸抑制、意識不明、痙攣、錯乱、血圧低下、重篤な脱力感、重篤なめまい、嗜眠、心拍数の減少、神経過敏、不安、痙攣、皮膚冷感等を起こすことがある。	連用により薬物依存。連用中における投与量の急激な減少による中止で退薬症候。		通常成人には、1回10mg、1日30mgを経口投与する。なお、年齢、症状により適宜増減する。一般に、生理機能の低下している高齢者、新生児・乳児では、呼吸抑制の感受性が高いため、低用量から投与を開始するなど患者の状態を観察しながら、慎重に投与すること。		各種呼吸器疾患における鎮咳・鎮痛・疼痛時における鎮痛・鎮静・鎮咳の改善
鎮咳成分	リン酸ジメフェンファン	鎮咳作用 リン酸ジメフェンファンは、延髄の咳中枢に直接作用して鎮咳作用をあらわす。非麻薬性・身体依存性及び精神依存性は認められず、非麻薬性であることが証明されている。腸管輸送能の抑制作用 リン酸コデイン投与時にみられるような腸管輸送能の抑制作用(便秘作用)を示さない。		0.1～5%未満(めまい、眠気、頭痛、頭重、口渇、食欲不振、悪心、嘔吐、下痢等)、0.1%未満(脱力感、倦怠感、顔面潮紅)	頻度不明(過敏症)		糖尿病又はその疑い、薬物過敏症、妊婦又は妊娠している可能性のある婦人、高齢者							成人(15歳以上)には1回1～2錠(リン酸ジメフェンファンとして10～20mg)を1日3回経口投与する。但し、年齢、症状により適宜増減する。高齢者では減量するなど注意すること。		下記疾患に伴う鎮咳・気道炎、肺炎、急性気管支炎、肺結核、慢性気管支炎
気管支拡張成分	塩酸トリメタゾール	イブリン錠 気管支拡張作用 気管支β2受容体の選択性 気管支β2受容体に対し作用選択性の高いことが認められている。 抗アレルギー作用	カテコールアミン製剤(不整脈、場合によっては心停止)、キサラン誘導体・ステロイド剤・利尿剤(血清カリウム値が低下)	β2刺激剤により重篤な血圧低下	0.1～5%未満(心悸亢進、頭痛、悪心、食欲不振、口渇)、0.1%未満(血圧変動、胸部圧迫感、振戦、眩暈、熱感)	5%以上又は頻度不明(過敏症)	甲状腺機能亢進症、高血圧症、心疾患、糖尿病、高齢者、妊婦又は妊娠している可能性のある婦人、授乳中の婦人、小児等、重症哮喘(血清カリウムの低下)					過度に使用を続けた場合、不整脈、場合によっては心停止を起こすおそれがあり		通常成人には塩酸トリメタゾールとして1回2～4mg、1日2～3回経口投与する。年齢・症状により適宜増減する。一般に高齢者では生理機能が低下しているため減量するなど注意すること。		下記疾患の気道閉塞性障害に基づく諸症状の緩解 気管支喘息、慢性気管支炎、哮喘症

鎮咳去痰薬

リスクの程度 の評価	A 薬理作用	B 相互作用	C 重篤な副作用のおそれ	C' 重篤ではないが、注意 すべき副作用のおそれ	D 濫用のお それ	E 患者背景(既往歴、治療状況等)(重 篤な副作用につながるおそれ)	F 効能・効果(症状の悪化 につながるおそれ)	G 使用方法(誤使用のおそれ)	H スイッチ 化等に伴う 使用環境の 変化					
評価の視点	薬理作用	相互作用	重篤な副作用のおそれ	重篤ではないが、注意すべ き副作用のおそれ	薬理に基づく 習慣性	適応禁忌	慎重投与 (投与により障害の 再発・悪化のおそれ)	症状の悪化 につながるお それ	適応対象の 症状の判別 に注意を要す る(適応を誤 るおそれ)	使用方法(誤使用のおそれ)	スイッチ化等 に伴う使用 環境の変化	用法用量	効能効果	
		併用禁忌(他 剤との併用により 重大な問題が 発生するおそれ)	併用注意	薬理・毒性に 基づくもの	特異体質・ア レルギー等によるもの	薬理・毒性に 基づくもの	特異体質・ア レルギー等によるもの			使用量に上 限があるもの	過量使用・誤使 用のおそれ	長期使用に よる健康被害 のおそれ		
気管支拡張成分	d-塩酸メチルエフェドリン	d-塩酸メチルエフェドリン散	アドレニン作動性の気管支拡張作用と中枢性鎮咳作用を示す。	カテコールアミン製剤(不整脈、場合によっては心停止を起す)	MAO阻害剤・甲状腺製剤(作用が増強)、キサンチン誘導体・ステロイド剤・利尿剤(血清カリウム値が低下)	β2刺激剤により重篤な血清カリウム値の低下	頻度不明(熱感)、0.1~5%未満(心悸亢進、顔面蒼白等、頭痛、不眠、めまい、眠気、神経過敏、疲労等、悪心、食欲不振、腹部膨満感等、口渇)	頻度不明(過敏症)。	カテコールアミン製剤を投与中(不整脈、場合によっては心停止を起すおそれ)	甲状腺機能亢進症、高血圧症、心疾患、糖尿病、高齢者、妊婦又は妊娠している可能性のある婦人、授乳中の婦人、小児等、重症喘息(血清カリウム低下)		過度に使用を続けた場合、不整脈、場合によっては心停止を起すおそれがある	d-塩酸メチルエフェドリンとして、通常成人1回25~50mgを1日3回経口投与する。	下肥疾患に伴う咳嗽、気管支喘息、感冒、急性気管支炎、慢性気管支炎、肺結核、上気道炎(咽喉頭炎、鼻カタル)、蕁麻疹、湿疹
	ジプロフィリン	ネオフィリンM末	緩やかな速心利尿作用、気管支拡張作用、作用機序、フォスホジエステラーゼ阻害による細胞内cAMPの増加、アデニン3',5'-環状核糖核酸の細胞内Ca ²⁺ の分布調節等の説がある	他のキサンチン系薬剤・中枢神経興奮薬(過度の中枢神経刺激作用)		頻度不明(頭痛、不眠、心悸亢進、悪心・嘔吐、食欲不振、腹痛、下痢)		本剤又は他のキサンチン系薬剤に対し重篤な副作用の既往歴	てんかん、甲状腺機能亢進症、急性腎炎、高齢者、小児、妊婦又は妊娠している可能性のある婦人				通常成人は、ジプロフィリンとして1日300~600mgを2~3回に分けて経口投与する。	気管支喘息、喘息性(様)気管支炎、うつ血性心不全

鎮咳去痰薬

リスクの程度 の評価	A 薬理作用	B 相互作用	C 重篤な副作用のおそれ		D 濫用のお それ	E 患者背景(既往歴、治療状況等)(重 篤な副作用につながるおそれ)	F 効能・効果(症状の悪化 につながるおそれ)	G 使用方法(誤使用のおそれ)	H スイッチ 化等に伴う 使用環境の 変化	I スイッチ化等 に伴う使用 環境の変化	用法用量	効能効果					
			C' 重篤ではないが、注意 すべき副作用のおそれ	C'' 重篤ではないが、注意す べき副作用のおそれ									薬理に基づく 習慣性	適応禁忌	慎重投与 (投与により障害の 再発・悪化のおそれ)	症状の悪化 につながるお それ	適応対象の 症状の判別 に注意を要す る(適応を誤 るおそれ)
評価の視点	薬理作用	相互作用	重篤な副作用のおそれ		薬理に基づく 習慣性	適応禁忌	慎重投与 (投与により障害の 再発・悪化のおそれ)	症状の悪化 につながるお それ	適応対象の 症状の判別 に注意を要す る(適応を誤 るおそれ)	使用方法(誤使用のおそれ)			用量に上 限があるもの	過量使用・誤使 用のおそれ	長期使用に よる健康被害 のおそれ	用法用量	効能効果
		併用禁忌(他 剤との併用 により重大な問 題が発生する おそれ)	併用注意	薬理・毒性に 基づくもの						特異体質・ア レルギー等に よるもの	薬理・毒性に 基づくもの	特異体質・ア レルギー等に よるもの					
気管支拡張成分	テオドール錠100mg/テオドール錠200mg	テオフィリンは、気管支拡張、肺血管拡張、呼吸中枢刺激、気道の粘液線毛輸送能の促進、横隔膜の収縮力増強、肥満細胞からの化学伝達物質(気管支収縮因子)の遊離抑制等の作用により、気管支喘息、慢性気管支炎、肺気腫等の閉塞性肺疾患の諸症状を改善する。	他のキサンチン系薬剤(中枢神経興奮薬(過度の中枢神経刺激作用)、交感神経刺激剤(β刺激剤の副作用症状を増強)、ハロタン(不整脈等の副作用を増強)、塩酸ゲタミン(痙攣)、シメチジン・塩酸メキシレチン・塩酸プロパフェノン・塩酸アミオダロン・エノキサシン・ピベド酸三水合物・塩酸シプロフロキサシン・フルプロキサシン・トルシド酸トスフロキサシン・メシル酸バズロキサシン・ブルリフロキサシン・エリスロマイシン・クラリスロマイシン・ロキソロマイシン・チアベンダゾール・塩酸チクロピジン・塩酸ペラミル・塩酸ジルチアゼム・マレイン酸フルボキサミン・フルコナゾール・ジスルファミン(テオフィリンの中毒症状)、アシクロビル・塩酸バラシクロビル・インターフェロン・イブuprofen・シクロスポリン・アロプリノール(テオフィリンの中毒症状)、ザフィルカスト(テオフィリンの中毒症状)、リファンピシン、フェノバルビタール、ランソプラゾール、リトナビル(テオフィリンの効果が減弱)、フェニトイン・カルバマゼピン(テオフィリン及び相手薬の効果が減弱)、ジピリダモール(ジピリダモールの作用を減弱)、ラマトロバン(ラマトロバンの血中濃度が上昇)、リルゾール(リルゾールの作用を増強(副作用発現))、タバコ(テオフィリンの中毒症状)、セイヨウオトギリソウ含有食品(血中濃度が低下)	痙攣・意識障害、急性脳症、横紋筋融解症、消化管出血、赤芽球癆、肝機能障害・黄疸、頻呼吸	アナフィラキシーショック	0.1～5%未満(頭痛、不眠、めまい、振戦、動悸、不整脈(心室性期外収縮等)、悪心、嘔吐、食欲不振、腹痛、腹部膨満感、下痢、消化不良(胸やけ等)、血清尿酸値上昇、CK(CPK)上昇、蛋白尿、ALT(GPT)、ALP、LDHの上昇、貧血)、0.1%未満(しびれ、不随意運動、筋緊張亢進、頻脈、顔面潮紅、顔面蒼白、しゃっくり、AST(GOT)の上昇、けん怠感、むくみ、胸痛)、頻度不明(神経過敏、不安、耳鳴、頻尿)	頻度不明(食欲不振、悪心)、0.1～5%未満(胃部不快感)	高齢者		過量投与によるテオフィリン血中濃度の上昇に伴い、消化器症状(特に悪心、嘔吐)や精神神経症状(頭痛、不眠、不安、興奮、痙攣、せん妄、意識障害、昏睡等)、心・血管症状(頻脈、心室頻拍、心房細動、血圧低下等)、低カリウム血症その他の電解質異常、呼吸促進、横紋筋融解症等の中毒症状が発現しやすくなる。	テオドール錠100mg、通常、テオフィリンとして、成人1回200mg(本剤2錠)を、小児1回100～200mg(本剤1～2錠)を、1日2回、朝及び就寝前に経口投与する。また、気管支喘息については、テオフィリンとして成人1回400mg(本剤4錠)を、1日1回就寝前に経口投与することもできる。テオドール錠200mg、通常、テオフィリンとして、成人1回200mg(本剤1錠)を、1日2回、朝及び就寝前に経口投与する。また、気管支喘息については、テオフィリンとして成人1回400mg(本剤2錠)を、1日1回就寝前に経口投与することもできる。	気管支喘息、喘息性(様)気管支炎、慢性気管支炎、肺気腫					
去たん成分	グアイフェネシン	フストン錠(フストン錠(共通の添付文書)なお、フストン錠は後発医薬品)	鎮咳作用、気管分泌促進作用										グアイフェネシンとして、通常成人1日300～900mgを分割経口投与する。なお、年齢、症状により適宜増減する。一般に高齢者では生理機能が低下しているので減量するなど注意すること。	下記疾患に伴う咳嗽及び喀痰排出困難感、急性気管支炎、慢性気管支炎、肺結核、上気道炎(咽頭炎、鼻カタル)			
	グアヤコールスルホン酸カリウム																

鎮咳去痰薬

リスクの程度 の評価	A 薬理作用	B 相互作用	C 重篤な副作用のおそれ	C' 重篤ではないが、注意 すべき副作用のおそれ	D 濫用のお それ	E 患者背景(既往歴、治療状況等)(重 篤な副作用につながるおそれ)	F 効能・効果(症状の悪化 につながるおそれ)	G 使用方法(誤使用のおそれ)	H スイッチ 化等に伴う 使用環境の 変化	用法用量	効能効果
評価の視点	薬理作用	相互作用 併用禁忌(他 剤との併用 により重大な 問題が発生す るおそれ) 併用注意	重篤な副作用のおそれ 薬理・毒性に 基づくもの 特異体質・ア レルギー等に よるもの	重篤ではないが、注意すべ き副作用のおそれ 薬理・毒性に 基づくもの 特異体質・ア レルギー等に よるもの	薬理に基づく 器慣性	適応禁忌 慎重投与 (投与により障害の 再発・悪化のおそれ)	症状の悪化 につながるお それ 適応対象の 症状の判別 に注意を要す (適応を誤る おそれ)	使用方法(誤使用のおそれ) 使用量に上 限があるもの 過量使用・誤使 用のおそれ 長期使用に よる健康被害 のおそれ	スイッチ化等 に伴う使用 環境の変化	用法用量	効能効果
去たん成分	塩酸プロムヘキシン ピソルボン錠	漿液性分泌 増加作用。 酸性糖蛋白 溶解・低分子 化作用。 肺表面活性 物質の分泌 促進作用。 線毛運動亢 進作用。	アナフィラキ シー様症状 (頻度不明)	0.1~5%未満 (悪心、食欲 不振、胃部不 快感、腹痛、 頭痛)、0.1% 未満(血痰)	頻度不明(過 敏症)	本剤の成分に対し 過敏症の既往歴	高齢者、妊婦又は 妊娠している可能 性のある婦人、低 出生体重児、新生 児、乳児、幼児又は 小児			通常成人には1回1錠 (塩酸プロムヘキシンと して4mg)を1日3回経 口投与する。 なお、年齢、症状により 適宜増減する。一般に 高齢者では生理機能が 低下しているので減量 するなど注意すること。	急性気管支 炎、慢性気管 支炎、肺結核、 塵肺症、手術 後
消炎酵素	塩化リゾチー ム	レフトーゼ錠 抗炎症作用 線形形成・粗 織修復作用 膿結核の分 解と排出作 用 出血抑制作 用	ショック、アナ フィラキシー 様症状・SJ症 候群・Lyell症 候群(頻度不 明)	0.1~5%未満 (下痢、胃部 不快感、悪 心・嘔吐、食 欲不振)、 0.1%未満(口 内炎等)、頻 度不明(肝機 能障害 (AST(GOT)、 ALT(GPT)、 Al-P、γ- GTP、LDHの 上昇等、めま い)	0.1%未満(過 敏症)	本剤の成分に対し 過敏症の既往歴、 卵白アレルギー(ア ナフィラキシー・ ショックを含む過敏 症状)	アトピー性皮膚炎、 気管支喘息、薬剤 アレルギー、食物ア レルギー等のアレ ルギー性素因、両 親、兄弟等がアレ ルギー症状の既往 歴、高齢者			1.慢性副鼻腔炎の腫脹 の緩解、痰の切れが悪 く、喀出回数が多い気 管支炎、気管支喘息、 気管支拡張症の喀痰 喀出困難、小手術時 の術中術後出血の場合、 通常、成人は1日塩化リ ゾチームとして、60~ 270mg(力価)を3回に 分けて経口投与する。 2.歯槽膿漏症(炎症型) 腫脹の緩解の場合、通 常、成人は1日塩化リ ゾチームとして、180~ 270mg(力価)を3回に 分けて経口投与する。	1.慢性副鼻腔 炎の腫脹の緩 解、痰の切れ が悪く、喀出 数の多い気管 支炎、気管支 拡張症の喀痰 喀出困難、小 手術時の術中 術後出血(歯 科、泌尿器科 領域)の場合 2.歯槽膿漏症 (炎症型)腫脹 の緩解の場合

鎮咳去痰薬

リスクの程度 の評価	A 薬理作用	B 相互作用		C 重篤な副作用のおそれ		C' 重篤ではないが、注意すべき副作用のおそれ		D 濫用のおそれ	E 患者背景(既往歴、治療状況等)(重篤な副作用につながるおそれ)	F 効能・効果(症状の悪化につながるおそれ)		G 使用方法(誤使用のおそれ)			H スイッチ化等に伴う使用環境の変化	用法用量	効能効果
		薬理作用	相互作用		重篤な副作用のおそれ		重篤ではないが、注意すべき副作用のおそれ			薬理に基づく習慣性	適応禁忌	慎重投与(投与により障害の再発・悪化のおそれ)	症状の悪化につながるおそれ	適応対象の症状の判別に注意を要する(適応を誤るおそれ)			
評価の視点			併用禁忌(他剤との併用により重大な問題が発生するおそれ)	併用注意	薬理・毒性に基づくもの	特異体質・アレルギー等によるもの	薬理・毒性に基づくもの	特異体質・アレルギー等によるもの					使用量に上限があるもの	適量使用・誤使用のおそれ	長期使用による健康被害のおそれ		
抗ヒスタミン成分	d-マレイン酸クロルフェニラミン ホウラミン錠 2mg	抗ヒスタミン作用		中枢神経抑制剤・アルコール・MAO阻害剤・抗コリン作用を有する薬剤(相互作用を増強)、ドロキソドパ、ノルエピネフリン(血圧の異常上昇)	痙攣・錯乱・再生不良性貧血・無顆粒球症(頻度不明)	ショック(頻度不明)	5%以上又は頻度不明(鎮静、神経過敏、頭痛、焦燥感、複視、眩暈、不眠、めまい、耳鳴、前庭障害、多幸症、情緒不安、ヒステリー、振戦、神経炎、協調異常、感覚異常、露視、口渇、胸やけ、食欲不振、嘔吐、腹痛、便秘、下痢、精尿、排尿困難、尿閉等低血圧、心悸亢進、頻脈、期外収縮、鼻及び気道の乾燥、気管分泌液の粘性化、喘鳴、鼻閉、溶血性貧血、肝機能障害(AST(GOT)・ALT(GPT)・Al-Pの上昇等)、悪寒、発汗異常、疲労感、胸痛、月経異常、0.1%未満(血小板減少)、自動車の運転等危険を伴う機械の操作	5%以上又は頻度不明(過敏症)		本剤の成分又は類似化合物に対し過敏症の既往歴、緑内障(増悪)、前立腺肥大等下部尿路に閉塞性疾患(増悪)、低出生体重児・新生児(徳馨等の重篤な反応があらわれるおそれ)	眼内圧亢進、甲状腺機能亢進症、狭心性消化性潰瘍、幽門十二指腸通過障害、循環器系疾患、高血圧症、高齢者、妊婦又は妊娠している可能性のある婦人					d-マレイン酸クロルフェニラミンとして、通常、成人には1回2mgを1日1~4回経口投与する。なお、年齢、症状により適宜増減する。	じん麻疹、血管運動性浮腫、結核熱、皮膚疾患に伴うそう痒(湿疹・皮膚炎、皮膚そう痒症、薬疹)、アレルギー性鼻炎、血管運動性鼻炎、感冒等上気道炎に伴うくしゃみ・鼻汁・咳嗽。